

## 日本化学会第95春季年会 (2015) 講演申込要項

第95春季年会実行委員会

- 主催** 公益社団法人日本化学会
- 会期** 2015年3月26日(木)～29日(日)
- 会場** 日本大学理工学部 船橋キャンパス (千葉県船橋市習志野台7-24-1)
- 実行委員長** 西原 寛 (東京大学大学院理学系研究科・教授)
- 内容** アカデミック・プログラム (AP:一般研究発表) (口頭・ポスター)  
アドバンスト・テクノロジー・プログラム (ATP) (ATPセッション・ATPポスター・ATP交流会)  
外国人の特別講演・受賞講演・特別企画・展示会・表彰式・懇親会・市民公開講座  
中長期テーマ・アジア国際シンポジウム・イブニングセッション・若い世代の特別講演・その他委員会企画
- 重要な日程** 講演申込期間 2014年11月13日～11月29日 ※訂正は12月1日18:00まで  
予稿原稿提出期間 2015年1月7日～1月22日  
参加予約期間 2015年1月23日～2月27日 詳細は本誌1月号  
プログラム公開 2015年2月23日(予定)  
予稿集発行日 2015年3月11日(予定)
- 問合先** 日本化学会 企画部 年会係  
〒101-8307 東京都千代田区神田駿河台1-5  
電話: 03-3292-6163 E-mail: nenkai@chemistry.or.jp  
URL: <http://www.csj.jp/nenkai/>

標記年会の研究発表を、以下のように募集します。講演申込要項は毎回見直しが行われ変更されていますので、必ずご確認下さい。本年会における留意点は以下のとおりです。

- 実行委員会では、年会の国際化推進に向け、英語の発表を増やすべく、英語での口頭講演(特にAPの口頭B講演)と、日本語による発表であっても英語によるスライド・ポスターの作成を強く推奨します。
- 各種手続きについても国際化推進に対応すべく、今年度より、「講演申込」、「参加登録」、「年会マイページ」の英語サイトを開設するとともに、HPで公開している「予稿原稿サンプル」も英語表記を主とした国際化版を用意する予定です。
- 昨年度より、ユーザーの状況(講演申込、予稿原稿投稿、参加登録、担当する座長/審査員など)を「年会マイページ」で確認できるようになりました。本年は、新機能として、マイスケジュールを追加します。この機能を使うと、お申込みいただいた講演や聴講予定の講演、担当座長や審査員の予定などをスケジュールリングすることができます。詳しくは、春季年会ウェブサイト (<http://www.csj.jp/nenkai/>) をご覧下さい。

### 1 講演申込について

#### 1.1 申込期間

2014年11月13日～11月29日

※訂正は12月1日18:00まで 講演申込完了時に発行されるユーザーIDとパスワードを使用して、年会マイページにて申込内容を訂正することができます。

#### 1.2 申込方法

春季年会ウェブサイト (<http://www.csj.jp/nenkai/>) 上の講演申込フォームからお申し込み下さい。

講演申込フォームが使用できない場合は、お早めに事務局にお問い合わせ下さい。締切間際になると対応できかねる場合もございます。

#### 1.3 申込完了の確認

講演申込が完了すると、年会マイページへログインするためのユーザーID及びパスワードが発行されます。また、申込内容を申込時に入力したE-mailアドレスに通知します。申込者は、講演申込が完了していることを年会マイページにて必ずご確認下さい。年会マイページにログインできない場合(講演申込の確認ができない場合)は、12月1

日までに必ず企画部 年会係までE-mailにてお問い合わせ下さい。期限後のお問い合わせには対応できませんのでご注意下さい。

#### 1.4 採否の決定

申込みいただいた講演の採否及びプログラム編成(「口頭(A講演・B講演)/ポスター・ATPポスター」の発表形式、発表部門、日時など)は、第95春季年会実行委員会に一任とします(希望と異なる場合もあります)。12月上旬に各部門別にプログラム編成を行いますので、申込者はこの時期、プログラム編成委員からの問合せになるべく対応できるようご配慮下さい。

#### 1.5 講演番号の通知

12月下旬に申込時に入力したE-mailアドレス宛に通知します。詳細は年会マイページにてご確認下さい。

#### 1.6 講演申込の取消

講演申込後に発表を取り消すと、プログラム編成に支障をきたすだけでなく、前後の講演者に対しても迷惑がかかります。社内審査がある場合は早めに手続きを開始し、必ず発表許可を取ってからお申し込み下さい。また学生が申

込者の場合は、講演申込内容に関して指導教員の確認を受けてからお申し込み下さい。理由の如何にかかわらず、講演予稿原稿を提出した後の差し替え、取り下げは認められません。

### 1.7 講演申込内容の公表

採択された講演申込内容は、連絡先に関する部分を除き、講演プログラムやデータベースの形で下記により公開・無償配布します。なお、公開したプログラムに変更が生じた場合は春季年会ウェブサイトにて告知します。

- ・講演プログラム 2015年2月下旬
- ・日本化学会研究者データベース 会期終了後
- ・JST JDream III ※予定 会期終了後

### 1.8 特許

講演予稿集をもって特許における公知日とされる方は、発行日以降権利が6ヵ月留保されることとなります。特許出願の際に必要な発表証明については、下記 URL をご参照下さい。http://www.csj.jp/news/happyo-syomei.html

インターネットでの公開内容も研究内容の公知に当たります。本年会での講演申込内容の公開時期については、前項を確認して下さい。

### 1.9 著作権

講演予稿集に記載された内容に関する著作権は、日本化学会に帰属するものとします。したがって本会が必要と認めるときは転載し、また外部からの引用の申請があったときは本会において検討の上、許可することとします。

### 1.10 各種講演賞

本年会では「学生講演賞」・「優秀講演賞(学術)」・「優秀講演賞(産業)」の3種類の講演賞を設けて優れた講演を顕彰します。各講演賞の対象者・発表形式・対象部門等は以下のとおりです。なお優秀講演賞(産業)は、昨季と同様、ATPポスターで発表・審査を行い、後述の3.2アドバンスト・テクノロジー・プログラム(ATP)に記載された産業適用分野で募集します。詳細は“産学交流委員会から優秀講演賞(産業)の案内”(本誌935ページ)を参照し、奮ってご応募下さい。

#### 学生講演賞

- 対象者 博士後期課程の学生会員
- 発表形式 口頭B講演
- 対象部門 アカデミック・プログラムの全部門
- 審査申込 上記条件を満たす講演すべてが対象となるため申込の必要はありません。

授与委員会 第95春季年会(2015)実行委員会

#### 優秀講演賞(学術)

- 対象者 平成27年4月1日時点で満36歳に達していない正会員
- 発表形式 口頭B講演
- 対象部門 アカデミック・プログラムの全部門
- 審査申込 講演申込時に審査を希望する旨を申請して下さい。

授与委員会 第95春季年会(2015)実行委員会

#### 優秀講演賞(産業)

- 対象者 平成27年4月1日時点で満40歳に達して

いない正会員及び学生会員

- 発表形式 ATPポスター
- 審査分野 審査分野は後述の3.2アドバンスト・テクノロジー・プログラム(ATP)に記載されたP1～P5の産業適用分野。※APの口頭A講演や口頭B講演と同様の内容で、産業適用分野を指定して申し込みすることも可能です。
- 審査申込 講演申込時に審査分野(P1～P5)を明記して、審査を希望する旨を申請して下さい。なお、定数に達した場合は、申込みを締め切る可能性があることをご了承下さい。
- 授与委員会 産学交流委員会

## 2 講演について

### 2.1 講演内容と講演者の条件

#### アカデミック・プログラム(AP)

講演内容は未発表のものに限ります。また、講演申込者及び講演者(登壇者)は、講演申込時点において日本化学会の個人会員に限ります(講演申込は、会員1人につき1件です)。

#### アドバンスト・テクノロジー・プログラム(ATP)

ATPの一般発表はすべてATPポスターで実施します。昨季までと同様、講演内容は未発表のものに限定せず、既発表のものや特許化・製品化済みの発表も可能です。また、APの口頭A講演、口頭B講演と同様の内容でATPポスターへ申し込みすることも可能です。発表に際しては、活発な質疑応答のため、できるだけ具体的な化合物名や構造をポスターに明示して下さい。講演申込者及び講演者(登壇者)は日本化学会の個人会員に限りますが、優秀講演賞(産業)の審査を希望する方は会員である必要があります。

※未入会の方は講演申込の前に日本化学会ウェブサイト(http://www.csj.jp/)より入会手続を完了させて下さい。  
 ※連名者(共著者)は日本化学会会員に限られません。  
 ※講演申込者・講演者(登壇者)・連名者(共著者)の如何にかかわらず本年会に参加される方は、全員参加登録が必要です。

### 2.2 発表形式と講演時間

#### アカデミック・プログラム(AP)

- 口頭A講演 10分(講演7分・討論2分・交代1分)
- 口頭B講演\*1 20分(講演15分・討論4分・交代1分)
- ポスター 45分

#### アドバンスト・テクノロジー・プログラム(ATP)

ATPポスター\*2 90分

- \*1 口頭B講演の発表資格は正会員もしくは博士後期課程の学生会員とし、特に英語での発表を強く推奨します。
- \*2 APの口頭A講演、口頭B講演と同様の内容でATPポスターへ申込み可能です。

### 2.3 発表言語

英語もしくは日本語とします。※講演申込時、発表言語に英語を選択した場合は、予稿原稿を英語で作成して下さい。

### 2.4 発表用スライド(資料)及びポスター

プレゼンテーション時に使用するスライド(資料)及びポスターはなるべく英語で作成して下さい。

### 2.5 発表機材

#### 口頭講演

すべての会場に液晶プロジェクター・RGB ケーブル・PC 切替器を用意します。講演者はPCを持参して下さい。またトラブル対策として、バックアップファイル(ウイルスのチェック及びOS互換性に関してチェック済みであることを)をUSBメモリでご用意下さい。

#### ポスター

ポスターボード(縦210 cm×横90 cm〔予定〕)と画鋏を用意します。

## 3 講演申込分類

### 3.1 アカデミック・プログラム (AP)

講演申込分類は毎年見直しを行っています。講演申込分類の誤りはプログラム編成ひいては会期中の運営にも多大な支障をきたしますので、必ずご確認下さい。

#### 1. 化学教育・化学史

A. 初等中等教育(実践例など), B. 大学教育(実践例など), C. 化学史・化学技術史, D. 化学入試問題の評価, E. その他

#### 2. 物理化学—構造

A. 気相分光, B. 赤外・ラマン分光, C. 電子スペクトル・電子分光・電子状態, D. 磁気共鳴, E. 結晶構造, F. 表面・界面, G. その他

#### 3. 物理化学—物性

A. 気体, B. 液体・溶液, C. 液晶・ガラス, D. 相平衡・相転移, E. 表面・薄膜・ナノ物性, F. クラスタ・ナノチューブ, G. 導電体, H. 磁性体, I. 光物性・その他

#### 4. 物理化学—反応

A. 気相反応(機構・速度論・ダイナミクス), B. クラスタ, C. 光化学反応(液相・固相・表面・膜), D. スピン化学・磁場効果, E. 電子移動・エネルギー移動, F. 放射線化学, G. 電気化学・界面化学, H. 非平衡系反応, I. その他

#### 5. 無機化学

A. 無機化合物の合成・反応, B. 無機化合物の構造・物性, C. 固体化学, D. 溶液化学, E. 放射化学・核化学・fブロック元素, F. ポリオキシメタレート, G. クラスタ化合物・包接化合物, H. 多孔性化合物, I. 層状化合物・ナノシート・無機薄膜, J. その他

#### 6. 錯体化学・有機金属化学(主たる金属元素記号を1つ記入のこと)

A. 錯体化学(1. 合成, 2. 構造, 3. 反応, 4. 物性, 5. その他), B. 有機金属化学(1. 合成, 2. 構造, 3. 反応,

4. 触媒, 5. 有機合成, 6. その他), C. 生物無機化学, D. 材料関連化学, E. その他

#### 7. 有機化学(主として物理有機化学的なもの)

A. 構造と物性(1. 分子構造と立体化学, 2. 新 $\pi$ 共役系分子の合成と物性, 3. 分子性導体・磁性体, 4. 分子性半導体, 5. 光分子物性, 6. 分子認識, 7. 超分子化学, 8. ナノ構造体の構築と物性, 9. その他), B. 反応機構(1. 反応性中間体, 2. イオン反応・加溶媒分解など, 3. ラジカル・電子移動・光化学反応など, 4. 理論計算, 5. その他), C. その他

#### 8. 有機化学—反応と合成(一般的反応と合成に関する研究)

A. 脂肪族・脂環式化合物, B. 芳香族化合物, C. 複素環化合物, D. ヘテロ原子化合物, E. 有機金属化合物(主たる金属元素記号を1つ記入のこと), F. 有機光化学, G. 有機電子移動化学, H. ハイスループット合成(1. コンビケム・固相合成, 2. 新反応場(フロー法, マイクロリアクター, マイクロ波, 固定化法, 反応媒体), 3. 反応集積化, 4. その他), I. その他

#### 9. 天然物化学(構造, 合成, 生合成など)

A. 脂肪酸関連化合物, ポリフェノール(ポリ環状エーテル, マクロリド, エンジン系化合物も含む), B. テルペン, ステロイド, C. アルカロイド, D. 糖, E. アミノ酸, ペプチド, F. コンビケム・固相合成, G. ケミカルバイオロジー(生物活性物質), H. その他 ※G. ケミカルバイオロジーは, 10. 生体機能関連化学・バイオテクノロジーと同一会場でプログラムが組まれます(予定)。

#### 10. 生体機能関連化学・バイオテクノロジー

A. 機能性低分子・分子認識(錯体, ポルフィリン, 補酵素, イオン, ラジカルなど), B. 核酸(モデル化合物を含む), C. タンパク質・酵素(タンパク質工学, 酵素工学, ペプチド, モデル化合物を含む), D. 糖(糖鎖工学, モデル化合物を含む), E. 脂質・生体膜(モデル化合物, モデル膜を含む), F. 細胞(バイオプロセス, 細胞工学, 代謝工学, 培養工学を含む), G. 生命情報(ゲノム, 遺伝情報発現など), H. 環境バイオテクノロジー・食品バイオテクノロジー・バイオセンサー, I. メディカルバイオテクノロジー, J. 生体触媒反応, K. ケミカルバイオロジー(作用機構, バイオイメーキング, ラベル化, 機能制御など), L. その他 ※K. ケミカルバイオロジーは, 9. 天然物化学と同一会場でプログラムが組まれます(予定)。

#### 11. 分析化学

A. 原子・分子スペクトル分析, B. レーザー分光分析(フォトサーマル, 蛍光, 時間分解, 顕微分光など), C. X線分析, D. センサー, E. 電気化学分析, F. 質量分析, G. フローインジェクション分析(FIA), H. 液体クロマトグラフィー(LC), I. ガスクロマトグラフィー(GC), J. 電気泳動分析, K. マイクロ・ナノ分析(マイクロチップ・ウェル, 超微粒子, 単一分子検出など), L. 分離・抽出・分析試薬の設計, M. プローブ顕微鏡, N. 界面分析, O. 標準試料・標準化, P. ケモメトリックス, データ解析法, Q. 環境・地球化学関連分析, R. 臨床・医療・法医学分析, S. バイオ分析(核酸, 遺伝子, タンパク質, 細胞, イ

メージングなど), T. 食品・医薬品分析, U. 材料分析・材料解析 (表面分析を含む), V. その他

## 12. 高分子

A. 高分子合成 (1. ラジカル, 2. イオン, 3. 配位触媒, 4. 開環, 5. 重縮合・重付加, 6. ブロック・グラフト共重合・特殊構造高分子, 7. その他), B. 高分子反応, C. 高分子構造・物性, D. 機能性高分子 (1. 高分子触媒, 2. 電気・電子・磁性, 3. 光, 4. 情報・記録, 5. バイオメディカル, 6. 膜・分離, 7. ゲル, 8. その他), E. 高性能高分子, F. 生体高分子, G. 高分子工業, H. その他

## 13. 触媒

A. 表面・吸着, B. 構造・物性・計算, C. 調製方法, D. 水素化・脱水素, E. 分解・改質・脱硫等, F. 酸化, G. 酸・塩基触媒, H. ゼオライト, I. メソポーラス物質, J. 環境触媒, K. 光触媒 (1. 可視光・太陽光の利用, 2. その他一般), L. 錯体・クラスター, M. 有機合成・重合, N. その他

## 14. コロイド・界面化学

A. 微粒子分散系 (1. サスペンション, 2. 微粒子・ナノ粒子, 3. 高分子コロイド, 4. 界面電気現象, 5. レオロジー, 6. バイオコロイド, 7. その他), B. 分子集合体 (1. ミセル, 2. 高分子溶液, 3. 超分子・高次分子集合体, 4. 液晶・ゲル, 5. エマルジョン, 6. 生体超分子, 7. その他), C. 組織化膜 (1. 単分子膜・LB膜, 2. 自己組織化膜, 3. 二分子膜 (ベシクル・リポソーム等)), 4. 界面物性 (気-液, 液-液), 5. バイオインターフェース, 6. その他), D. 固体表面・界面 (1. 表面構造と物性・機能, 2. 吸着と触媒, 3. 表面力・トライボロジー, 4. マイクロファブリケーションとナノテクノロジー, 5. その他), E. 新領域, F. 国際セッション (口頭講演 (英語) のみ募集)

## 15. 材料化学

A. 無機材料, B. 有機・高分子材料, C. 複合材料, D. 炭素材料, E. ガラス・アモルファス材料, F. ナノ粒子・薄膜・低次元材料, G. イオン液体・共融混合物液体, H. その他

## 16. 材料の機能

A. 生体機能 (1. 生体適合材料, 2. DDS, 3. その他), B. 光化学機能 (1. フォトクロミズム, 2. 光化学増幅, 3. 有機-無機複合材料, 4. その他), C. エネルギー変換機能 (1. 光エネルギー変換, 2. 熱エネルギー変換, 3. その他), D. 電子・磁気機能 (1. 超伝導, 2. 導電体, 3. 半導体, 4. 絶縁体, 5. 磁気, 6. その他), E. 光学機能 (1. 偏光, 2. 変調・増幅, 3. 非線形, 4. その他), F. 分離機能 (1. 吸着, 2. イオン交換, 3. 包接, 4. 光学分割, 5. その他), G. その他

## 17. 材料の応用

A. センサー (1. 温度・湿度, 2. 物理量 (圧力・速度など), 3. 成分, 4. バイオセンサ, 5. その他), B. 記録・記憶 (1. カラーハードコピー, 2. 写真, 3. 磁気記録, 4. 光記録, 5. 印刷, 6. その他), C. 表示 (1. CRT, 2. 液晶, 3. プラズマ, 4. EC, 5. EL, 6. その他), D. 電子部品関連 (1. 半導体, 2. レジスト, 3. 封止, 4. 接続・

実装, 5. その他), E. 光学部材 (1. レンズ, 2. ファイバー, 3. 非線形光学部材, 4. その他), F. 電池・エネルギー (1. 一次電池, 2. 二次電池, 3. 燃料電池, 4. その他), G. 機能性色素 (1. 機能性色素, 2. 顔料・塗料, 3. その他), H. 接着剤・界面機能 (1. 接着・粘着, 2. その他), I. ライフサイエンス, J. 医薬・農薬, K. 環境材料 (1. リサイクル材料, 2. 環境調和・生分解材料, 3. その他), L. 高性能材料 (1. ハイブリッド, 2. アロイ, 3. ブレンド, 4. ゴルゲル, 5. 耐熱難燃性材料, 6. 高強度高弾性材料, 7. その他), M. その他

## 18. 資源利用化学

A. 石油, B. 石炭, C. ガス化学, D. 環境資源化学 (1. CO<sub>2</sub>捕捉, 2. CO<sub>2</sub>転換, 3. 反応・触媒, 4. その他), E. 再生可能資源化学 (1. バイオマス, 2. マリーンバイオ, 3. 回収・再利用, 4. 廃プラスチックの再資源化, 5. その他), F. 海洋資源化学, G. 鉱物資源化学, H. 資源開発・管理, I. その他

## 19. エネルギーとその関連化学, 地球・宇宙化学

A. エネルギー変換 (1. 燃料電池, 2. 太陽電池, 3. 電気化学プロセス, 4. 光電気化学, 5. その他), B. エネルギー貯蔵 (1. キャパシタ, 2. 二次電池, 3. 水素貯蔵, 4. 相変化・構造変化, 5. その他), C. エネルギーの高度利用 (1. 光触媒, 2. 省エネルギー素材, 3. その他), D. 電気化学 (1. 腐食防食, 2. 固体電解質, 3. 溶融塩, 4. 電解合成, 5. その他), E. 光化学 (1. 光誘起電子移動, 2. 励起状態と緩和過程, 3. 光合成関連化学, 4. レーザー誘起反応, 5. 有機光化学, 6. その他), F. 放射線化学・核化学・放電・プラズマ, G. 高温化学・燃焼・火薬, H. 超音波化学, I. 地球化学・宇宙化学, J. その他

## 20. 環境・グリーンケミストリー

A. 大気・水質・土壌・廃棄物環境化学, B. 安全化学, C. グリーンケミストリー, D. 地球環境への材料の応用, E. 光触媒, F. その他

## 21. 理論化学・情報化学・計算化学

A. 電子状態, B. 化学反応, C. ダイナミクス, D. バイオ, E. 材料, F. シミュレーション, G. 数理化学, H. 化学情報, I. その他

## 22. 有機結晶

A. 構造と物性, B. 分子集合系構築, C. 分子認識, D. 動的挙動, E. 分子集合体中の反応, F. 低秩序分子集合体, G. その他

## 3.2 アドバンスト・テクノロジー・プログラム (ATP)

下記 P1 ~ P5 の産業適用分野で ATP ポスターを募集します。実施日は3月26日を予定しています。なおオーラルセッションの内容については、後述の 9.1 アドバンスト・テクノロジー・プログラム (ATP) をご覧下さい。

### P1. エネルギー

例; 創エネ, 蓄エネ, 送エネ, 節エネ, 等々

### P2. 資源・環境・GSC (Green Sustainable Chemistry)

例; 炭素資源, レアメタル, 化学プロセス, 触媒, 水処理, 等々

### P3. 新素材

例;自動車素材, 航空用素材, 建築素材, 構造材, 包装材, 繊維, 等々

### P4. 通信・エレクトロニクス

例;プリントエレクトロニクス, 有機エレクトロニクス, 等々

### P5. 医療・ヘルスケア・バイオテクノロジー

例;創薬, 診断薬, 人工臓器, 再生医療, バイオ品種改良, 農薬, 肥料, 化粧品, 等々

## 4 講演予稿原稿

### 4.1 提出期間

2015年1月7日～1月22日

締切期日までに講演予稿原稿を提出しない場合は、講演を中止したものとしますのでご注意ください。

### 4.2 提出方法

講演予稿原稿をPDFファイルで作成の上、年会マイページへログイン後、予稿原稿を提出して下さい。※講演申込時、発表演語に英語を選択した場合は、予稿原稿を英語で作成して下さい。

フォームが使用できない場合は、お早めに事務局にお問い合わせ下さい。締切間際になると対応できかねる場合もございます。

提出期間後の原稿の訂正はできません。また、提出された原稿は返却しませんので、あらかじめご了承下さい。

### 4.3 作成方法

春季年会ウェブサイト (<http://www.csj.jp/nenkai/>) 上で公開するテンプレート(雛型)を使って、PDFファイルを作成して下さい。※発表演語(英語)の場合:すべて英語で作成して下さい。

講演予稿集はモノクロで印刷され、1講演あたりのサイズはA4判の1/4です。図表・写真等を入れる場合には、この点を考慮して下さい。詳細は、春季年会ウェブサイト (<http://www.csj.jp/nenkai/>) 上の、「予稿原稿作成要項」をご参照下さい。

## 5 講演予稿集

### 5.1 発行日

2015年3月11日(予定)

### 5.2 発行形式

形式	内容
DVD	参加登録費に含みます(入会準備学部学生は除く)。
冊子	4分冊での発行を予定。収録内容は次項を参照下さい。参加登録費には含まれないので別途申込が必要です。
WEB	参加予約申込をし、期間内にお支払をされた方のみ春季年会ウェブサイトにて閲覧可能です。
USB	内容はDVDと同様です。予約のみ受付ます。参加登録費に含まれるDVDを+3,000円でUSBに変更も可能です。

## 5.3 冊子体の収録内容

分冊	収録内容	価格
I分冊	アドバンスト・テクノロジー・プログラム(ATP), 学会賞, 特別講演, 特別企画, 市民公開講座	2,500円
II分冊	1. 化学教育・化学史, 2～4. 物理化学, 5. 無機化学, 6. 錯体化学・有機金属化学, 11. 分析化学, 13. 触媒, 18. 資源利用化学, 19. エネルギーと関連化学, 地球・宇宙化学, 20. 環境・グリーンケミストリー, 21. 理論化学・情報化学・計算化学	3,500円
III分冊	10. 生体機能関連化学・バイオテクノロジー, 12. 高分子, 14. コロイド・界面化学, 15. 材料化学, 16. 材料の機能, 17. 材料の応用, 22. 有機結晶	3,500円
IV分冊	7. 有機化学-物理有機化学, 8. 有機化学-反応と合成, 9. 天然物化学	3,500円

## 6 参加登録

講演申込者・講演者(登壇者)・連名者(共著者)の如何にかかわらず本年会に参加される方は、全員参加登録が必要です。本年会の参加登録の概要は以下の予定です。詳細は本誌1月号にてご確認ください。

### 6.1 申込期間

2015年1月23日～2月27日

※参加費等の支払い締切日は2015年2月27日です。

### 6.2 申込方法

■講演申込してユーザー登録済の場合: 年会マイページへログインして、トップ画面のメニュー「参加登録」よりお申し込み下さい。

■ユーザー登録なしの場合: 春季年会ウェブサイト (<http://www.csj.jp/nenkai/>) 上の参加予約申込フォームからお申し込み下さい。申込時に自動的にユーザー登録され、申込み完了後に、ログインに必要なユーザーID及びパスワードがE-mailアドレスに通知されます。

### 6.3 参加登録費

参加登録費は以下の表のとおりで、いずれも講演予稿集DVD-ROMが含まれます(入会準備学部学生を除く)。

なお、講演予稿集(冊子)、懇親会参加をご希望の場合には別途費用が発生します。

会員区分	予約	当日	課税区分
正会員	12,000円	14,500円	不課税
正会員割引*1	9,500円	9,500円	〃
学生会員	4,000円	5,500円	〃
学生会員割引*2	3,500円	3,500円	〃
教育会員	5,000円	6,500円	〃
非会員	24,000円	25,500円	課税
入会準備学部学生*3	-	2,000円	〃

\*1 満60歳以上で定職に就いていない方(シニア会員)

- \*2 学部3年以下の方（専攻科1年以下の高専生を含む）  
（通称：ジュニア会員）
- \*3 研究発表を行わない非会員（未入会）の大学の学部学生及び高等専門学校の学生が対象。ただし、参加登録費に講演予稿集DVD-ROMは含まない。

#### 6.4 懇親会

**日時** 2015年3月28日 18時～

**会場** 日本大学理工学部船橋キャンパス内

**参加費** 予約 一般 5,000円, 学生 2,000円  
当日 一般 6,000円, 学生 2,000円

#### 申込方法

参加登録（6.2申込方法を参照）をされる際に、同時に申し込み下さい。

※懇親会のみ参加も可能です。

#### 6.5 宿泊・交通について

本年会実行委員会では、宿泊・旅行等の斡旋はしませんので、各自の責任において手配をして下さい。春休みの旅行シーズンでもありますので、早めの準備をお勧めします。

### 7 付設展示会出展募集

付設展示会への出展受付業務は化学工業日報社に委託しました。出展をご希望されるお客様は下記までお問い合わせ下さい。

#### 7.1 概要

**会期** 2015年3月26日～28日

**会場** 日本大学理工学部 船橋キャンパス内

#### 出展の対象

汎用科学機器・装置／汎用器具・消耗品／分析機器・装置／物理量・物理測定装置／試験機器・装置／実験室設備／試薬類／情報処理技術／書籍／環境関連機器・装置／CD-ROM／インターネット関連／安全性試験受託・分析リサーチ／耐震・防災・保護・避難／PRTR対策技術／CCS関連ソフト（分子設計支援システム／ポリマー設計支援システム／材料設計支援システム／タンパク工学支援システム／遺伝子工学支援システム／分子構造決定支援システム／合成設計支援システム／データベースシステム／計算化学プログラム／ラボラトリーオートメーション）／コンビナトリアルケミストリー／ナノテクノロジー関連／バイオテクノロジー関連

#### 7.2 お問い合わせ先

（株）化学工業日報社 企画局 担当：平川  
〒103-8485 東京都中央区日本橋浜町3-16-8  
電話(03)3663-7936 FAX(03)3663-7861  
E-mail: h\_hirakawa@chemicaldaily.co.jp

### 8 広告募集

本年会における下記媒体への広告を募集します。詳細情報は、春季年会ウェブサイト（<http://www.cs.jp/nenkai/>）掲載の要項または下記へお問い合わせ下さい。

#### 8.1 募集広告一覧

媒体名	発行数	配布対象
①プログラム	10,000	参加者全員

②展示会ガイドブック	〃	〃
③講演予稿集（DVD）	〃	〃
④講演予稿集（冊子）	各500	希望者へ有償配布
⑤ウェブサイト・バナー	-	-
⑥手提げ袋	10,000	参加者全員

#### 8.2 お問い合わせ先

②展示会ガイドブック, ③講演予稿集（DVD）, ⑥手提げ袋

（株）化学工業日報社 企画局 担当：平川  
〒103-8485 東京都中央区日本橋浜町3-16-8  
電話(03)3663-7936 FAX(03)3663-7861

E-mail: h\_hirakawa@chemicaldaily.co.jp

①プログラム, ④講演予稿集（冊子）, ⑤ウェブサイト・バナー

（株）明報社 担当：後藤  
〒104-0061 東京都中央区銀座7-12-4 友野本社ビル  
電話(03)3546-1337 FAX: 03-3546-6306  
E-mail: goto@meihosha.co.jp

### 9 会期中に予定されている企画

本年会において実施予定の①アドバンスト・テクノロジー・プログラム（ATP）、②アジア国際シンポジウムをご紹介します。春季年会では例年多数のシンポジウム、行事が企画されます。詳細は本誌1月号に掲載予定です。

#### 9.1 アドバンスト・テクノロジー・プログラム（ATP）

**実施日** 2015年3月26日～29日

#### 開催趣旨

2005年より実施してきたアドバンスト・テクノロジー・プログラム（ATP）では、産業界が注目する化学技術分野について産学官の研究者が一堂に会して発表・討議することにより、産学官の交流深耕を図ってきました。

11年目を迎える今季のATPでは、この目的に沿ってセッション構成や内容を刷新したATPセッション及び優秀講演賞（産業）の審査を行うATPポスターを実施するとともに、今季新たにJACI（新化学技術推進協会）特別企画として「化学産業から学生に伝えたいキャリアパスガイド／企業で活躍するために」と題した産学連携の人材育成企画も実施するなど、産学官の皆様がface-to-faceで実質的な交流ができる多くの場を提供します。

#### ATP セッション

##### T1. 資源・次世代エネルギーと環境

A. 太陽エネルギー変換の新技術と展望, B. FCV元年、本格普及へ向けた燃料電池・水素エネルギー技術開発, C. リチウム硫黄二次電池への挑戦, D. エネルギーの高効率的利用と環境を支える化学, E. 再生可能炭素資源を活用するための有機合成化学

[オーガナイザー]: 宮坂 力 (桐蔭横浜大・教授), 井上晴夫 (首都大・教授), 佐々木一成 (九大水素エネルギー国際研究センター・センター長), 片山 靖 (慶大理工・教授), 江口浩一 (京大院工・教授), 山口雅彦 (東北大院薬・教授)

[趣旨]: 東日本大震災から3年以上経過しましたが、エネルギー、環境及び資源をめぐる諸課題解決の重要性と緊急性は増すばかりです。本セッションでは今回もホットな5

つのサブセッションテーマを設定して、これらの諸課題解決に向けて化学が果たせる役割を産学官でともに考える情報交流の場を提供します。多数の方々が参加して熱気溢れる議論ができる場にしたいと思います。

A. 太陽エネルギー変換の新技术と展望：太陽光発電においては色素増感型や有機薄膜型に加えてペロブスカイト型有機無機ハイブリッド太陽電池の研究開発が急速に進み、大きなコストダウンが見込めるだけでなく変換効率もシリコン系に迫るレベルに達しています。また太陽エネルギーを水素などの化学エネルギーに変換する人工光合成研究においても、半導体光触媒による水の分解の研究などで多くのブレイクスルーがなされ、実用化への期待が高まりつつあります。本セッションでは、これらの太陽エネルギー変換研究分野で世界のトップを走る著名な先生方をお招きし、現在進行中の最新の成果を交えて産業利用への将来展望についてご講演いただきます。再生可能エネルギーの開発が喫緊の課題となりつつある今、産官学の境界を越えて活発に議論したいと考えます。

B. FCV 元年、本格普及へ向けた燃料電池・水素エネルギー技術開発：クリーンエネルギーへの期待から、水素インフラ整備とともに、2014 年度中に燃料電池車 (FCV) が一般販売開始されることが発表されました。2015 年 FCV 元年にあたり、燃料電池・水素エネルギー技術の更なる発展のために、将来を担う若手研究者を含め、第一線で活躍する方々を一堂に会して、ケミストリーに期待されることや次世代技術について議論します。

C. リチウム硫黄二次電池への挑戦：二次電池は小型電子機器の電源のみならず、電気自動車や大型の電力貯蔵などにおけるキーデバイスとなっています。現在、最も高いエネルギー密度をもつリチウムイオン二次電池の正極には、インサレーション型遷移金属酸化物正極が用いられていますが、その比容量及びエネルギー密度を飛躍的に向上させることは容易ではありません。近年、遷移金属酸化物の正極にかわる新たな正極材料として硫黄が注目されています。しかしながら、硫黄を実用的な二次電池の正極に用いるためには解決しなければならない技術的課題が山積されています。本講演会では硫黄正極を用いた二次電池の開発に携わっている第一線の研究者から最近の取り組みについて紹介していただくとともにパネルディスカッションも行い、活発な議論に繋がりたいと思います。

D. エネルギーの高効率的利用と環境を支える化学：エネルギー問題と環境問題は、世界の人口増加や経済成長により一段と深刻さが増していますが、この二つの問題は相互に密接に関係しています。今、エネルギー問題の解決には、次世代エネルギー開発の視点とともに、省エネルギーの視点が欠かせません。得られたエネルギーを無駄なく効率的に活用する技術は、エネルギー問題を考える上での基盤となる技術と言えます。

本サブセッションでは、エネルギーの高効率的利用と環境に焦点をあて、最先端、最前線の研究の進捗と直面する課題を認識し、化学の果たすべき役割とその重要性を説き、我々の進むべき道を議論したいと思います。

E. 再生可能炭素資源を活用するための有機合成化学：バイオマスなど再生可能炭素資源を有効活用するための有機合成化学について議論します。バイオマスを一旦 CO やエタノールに分解した後目的の構造に再構築することも非常に汎用性の高い方法で多くの研究がなされていますが、ここではバイオマスの構造をできるだけ生かそうとする方法、すなわち選択的な分解方法、そして分解物の構造を生かした有機合成手法などを取り上げます。

## T2. 新材料開発最前線

A. プリントドエレクトロニクス, B. 連携が支えるバイオミメティクス, C. 軽量化材料, D. 三次元造形技術と材料の現状

[オーガナイザー]: 鎌田俊英 (産総研), 下村政嗣 (千歳科工大), 松崎亮介 (東理大理工・講師), ほかに数名を予定。  
[趣旨]: 現在、注目を集めている技術としては省エネ技術や省資源技術があります。さらに生物の持つ環境対応等の多様性を技術として捉えることにも興味をもたれています。これらに関連する新材料・技術として「A: プリントドエレクトロニクス」, 「B: 連携が支えるバイオミメティクス」, 「C: 軽量化技術」, 「D. 三次元造形技術と材料」の最前線を紹介する四つのサブセッションを設定しました。周辺領域を包含する広範な内容について分野を超えた活発な議論を期待しています。

A. プリントドエレクトロニクス：プリントドエレクトロニクスは、フレキシブルデバイス製造による新市場開拓、変量多品種製造による高生産性の実現などの魅力から、近年大きな期待が寄せられています。その技術開発は、材料、プロセス、装置、デバイス等の各要素技術の高度な摺合せにより確立されることから、多角的な技術連携が必要とされています。本サブセッションでは、こうした異業種技術連携の促進を図るため、各要素技術の最前線技術を取り上げ、その中で特に次世代材料技術としての方向性、技術仕様などに関する議論を進めていきます。

B. 連携が支えるバイオミメティクス：バイオミメティクスの現代的な意義は、生物の進化適応の背景にある「生き残り戦略」の“パラダイム (規範)”を見だし、「自己組織化」を含むモノづくりプロセスの革新を図ることで、持続可能性に寄与することです。バイオミメティクスは、“ビッグデータ”でもある生物多様性を原資としており、“生物学と工学を情報で結ぶ”異分野連携に基づく総合的な取り組みが不可欠です。さらに、バイオミメティクスの国際標準化が具体化するなか、国際連携、地域連携、産学連携、博物館連携など多様な連携に軸足を置き、新ビジネス創出の求心力となる“場”であるオープンイノベーション・プラットフォームが求められます。“総花的なトピックス”と思われるバイオミメティクスを総合的工学体系として構築するために議論の場を持ちます。

C. 軽量化材料：省資源及び省エネ材料としては、自動車や航空機などの移動体用に期待されるものとして、軽量化用構造材料がある。出口を見据えた理論と応用の最先端の状況を紹介します。

D. 三次元造形技術と材料：三次元造形技術は半導体造

形から金型作製まで、多くの産業の様々な分野での活用が広がり始めています。そのために従来はサンプル作製やデザイン確認等のレベルから、製品作製までになり、今後必要となる材料の範囲が大きく広がる事が期待されます。そのために必要となる幅広い要素技術や材料に関して紹介いたします。

### T3. バイオ技術の新展開

A. 植物工場の新展開, B. 次世代バイオ計測技術の新展開, C. バイオベンチャーの新展開

[オーガナイザー]: 後藤英司 (千葉大院園芸・教授), 宮本憲二 (慶大理工・准教授), 菅 裕明 (東大院理・教授)

[趣旨]: 21世紀は、ヒトゲノムが解明され、まさにポストゲノム時代に突入し、生物が有する生体機能の研究が一気に進み、バイオ技術は医療・ヘルスケア分野にとどまらず、食糧・水、資源・環境、エネルギー等の課題解決に向け、広範囲な分野での活用が期待されています。一方、技術革新は、国境と時間を越え、産官学連携、産産連携等を含めたオープンイノベーションの風を受け、異分野との融合によって、さらに革新的なバイオ技術の創生がなされるとともに、ビジネスとしての実用化、新たな産業の創生が加速されています。今回は、その中から、過渡期に入ってきた「植物工場」、また、個別化医療を含めて病気の診断や健康管理に有用な情報を与えるための「バイオ計測技術」をトピックスとして取り上げ、これらに対する革新的バイオ技術の基礎から応用、ビジネス展開に至るディスカッションができる場を設けました。さらには、前回に引き続き、新たな市場創生をもたらすバイオベンチャーから独自の技術戦略及びビジネス戦略等について講演いただき、これらのバイオ技術のオープンイノベーションの機会を提供いたします。

A. 植物工場の新展開: 20世紀末に事業化がスタートした植物工場は、その後の多様な研究開発の進展により、事業ベースで採算が取れる状況が実現しつつあります。高度な栽培環境を作り出す高機能材料やシステムの発展のみならず、完全閉鎖型の栽培空間を利用した医薬品や機能性食品生産などの技術も進んでいます。本サブセッションでは今と未来の植物工場について、広く話題を提供します。

B. 次世代バイオ計測技術の新展開: 従来、測定が困難であった微量の生体成分 (例えばアミノ酸、臭いや味の成分) を高感度で定量するバイオ計測技術が開発され、病気の早期発見や健康管理などに適応され始めています。本サブセッションでは、最新の分析手法の原理やその事業化について話題を提供します。

C. バイオベンチャーの新展開: オープンイノベーションの風を受け、バイオベンチャーにおいては、新たな市場の創生のための独自技術の開発が加速されています。本サブセッションでは、前回に引き続き、産業界に大きなインパクトを与え、新たな産業創出と日本経済発展をもたらすベンチャーを厳選し、そのユニークな技術戦略及びビジネス戦略等について話題提供していただきます。

### ATP ポスター

大学・国研から企業への研究シーズのアピール、企業の研究成果のPR、共同研究や産学連携を意図した研究紹介、等々、産学官の研究者がface-to-faceで交流できる場を提供します。発表は3.2. アドバンスト・テクノロジー・プログラム (ATP) に記載したP1~P5の産業適用分野で募集し、審査申請した発表に対しては産業界の審査委員が発表者との質疑応答により審査して、優れた発表には優秀講演賞 (産業) が授与されます。専門分野が異なる研究者や企業の研究者から、異なる視点のアドバイスや研究のヒントが得られるチャンスです。産学官の多くの皆様の応募、参加をお待ちします。(3月26日実施予定)

### JACI (新化学技術推進協会) 特別企画~化学産業から学生に伝えたいキャリアパスガイダンス/企業で活躍するために~

JACIでは、将来の化学産業を担う人材の育成を目的として、大学生・大学院生を対象にキャリアパスガイダンスを実施しています。これは、企業の第一線で活躍する研究者やマネージャーが化学産業の現状や企業での仕事・働き方、企業が求める人材像を学生に伝えることで、化学産業界で働くことの楽しさや意義を理解し、将来そこで活躍するために何を学ばよいかを気づききっかけとなることを狙いとしています。本企画では、これまで特定大学で限定的に実施してきたキャリアパスガイダンスを全国から参集される学生や大学関係者に知っていただき、多くの学生が自らのキャリアパスや学びの意義を考える一助になればと考えています。昨季まで博士人材を対象に実施してきた「博士セミナー」の内容も盛り込んで、学部学生から博士前期・後期課程の大学院生、ポストドクターまで、化学企業を目指す学生の皆様にとっては大変有益な得難い時間となるでしょう。学生の皆様はもちろん、産学連携による人材育成に興味をお持ちの大学関係者や企業関係者の皆様も、是非ご参加下さい。(3月26日実施予定)

上記の他、ATP交流会 (3月26日実施) も予定しています。

### 9.2 アジア国際シンポジウム

学術研究活性化委員会では、春季年会の活性化を目的として、我が国とアジア諸国の産学の若手研究者によるアジア国際シンポジウムを開催します。開催予定のディビジョンは下記のとおりです。

1. 物理化学/理論化学・情報化学・計算化学
2. 光化学
3. 錯体化学・有機金属化学
4. 有機化学/環境・安全化学・グリーンケミストリー・サステイナブルテクノロジー
5. 天然物化学・生命科学/生体機能関連化学・バイオテクノロジー
6. 医農薬化学
7. 高分子

## 第95春季年会 (2015)「優秀講演賞 (産業)」 “CSJ Presentation Award 2015 for Industries”のご案内

産学交流委員会 委員長 蛭川洋一

日本化学会産学交流委員会では、平成20年度から「優秀講演賞 (産業)」の表彰を行っています。来る平成27年3月26日(木)～29日(日)、日本大学理工学部船橋キャンパスで開催される標記年会においては、下記要領でATPポスターを対象に審査・選考を行い、優れた講演者に対して「優秀講演賞 (産業)」を授与します。

産業界の審査委員が、ATPポスター発表での質疑応答と意見交換を通して、産学官の研究成果を産業界の視点で審査します。産学官の多くの皆様のご応募、ご参加をお待ちします。

### 選考対象者：

産学官を問わず平成27年4月1日時点で満40歳に達していない正会員及び学生会員で、講演申込時に審査希望を申請した者。過去の受賞経験者は、研究内容が全く異なる場合、あるいは研究開発ステージが上がるなど研究の進展が顕著な場合に限り対象とします。

### 審査対象：

ATPポスター。

### 審査分野：

下記P1～P5の産業適用分野を審査分野とします（審査分野を昨季の7つから5つに集約しました）。アカデミック・プログラム（AP）の口頭A講演や口頭B講演と同様の内容で、ATPポスターに申し込むことも可能です。講演申込時に審査分野を明記して、審査希望を申請して下さい。

P1. エネルギー（例；創エネ、蓄エネ、送エネ、節エネ、等々）

P2. 資源・環境・GSC（Green Sustainable chemistry）（例；炭素資源、レアメタル、化学プロセス、触媒、水処理、等々）

P3. 新素材（例；自動車素材、航空用素材、建築素材、構造材、包装材、繊維、等々）

P4. 通信・エレクトロニクス（例；プリントエレクトロニクス、有機エレクトロニクス、等々）

P5. 医療・ヘルスケア・バイオテクノロジー（例；創薬、診断薬、人工臓器、再生医療、バイオ品種改良、農薬、肥料、化粧品、等々）

### 選考方法：

産学交流委員会及び傘下の各小委員会委員、並びに日本化学会フェローなどのほか、委員より推薦され委嘱された複数の審査委員が、審査申請されたATPポスター発表を選考基準に基づいて審査し、会期後にATP企画小委員会で選考を行い、産学交流委員会で決定します。

### 選考基準：

産業に対する寄与が期待される基礎的または応用的な概念、アイデア、実験手法、実験結果などについての発表であり、発表者の研究に対する主体性や貢献度が優れ、かつ今後の研究活動の一層の発展の可能性を有すると期待されるもの。

### 授与件数：

20件に1件の割合で授与します。

### 賞状の授与：

日本化学会会長名の賞状を授与します。年会終了後、日本化学会から所属長を経由して本人に賞状を送付し、後日、「化学と工業」誌に氏名、所属、演題を掲載します。